

「日々の理科」(第2640号) 2021, 10, -5

「二度咲きしたキンモクセイ(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

9月中旬の「二度咲き一回目」の時は、なかなか時間がとれず、子どもたちにキンモクセイの花を見せることができなかつた。実は第二校歌の「わたしたちの歌」の3番に「キンモクセイは知っている 応援合戦 秋の日に・・・」という歌詞があり、本校の子どもたちには馴染みの深い植物なのだ。



10月上旬の晴れた日、3年生の子どもたちを、キンモクセイの木の下に連れていった。



キンモクセイの観察なんて、子どもたちは大して興味を示さないとしたら大間違い。夢中に枝に手を伸ばして、「キンモクセイ狩り」をしていた。何よりもその芳醇な香りに誰もが喜んでた。この日は飽きもせず、20分以上花を摘んで、低い枝の花はほとんどなくなってしまった。



前回虫の採集と観察に使った、蓋付きのプラスチック・シャーレに花を入れる子どもも多かった。この子は「大収穫！」と喜んでた。



こういう場合も、R-1(乳酸菌飲料)の空き容器が役立つ。キンモクセイの花はしおれるのが早い。しかし水に入れておくと2~3日持つ。



最初は水に浮いているが、次第に沈んでくる、香りの成分は徐々に水に溶けだし、数時間たって蓋を開けると、香水のようにすばらしい香りがする。